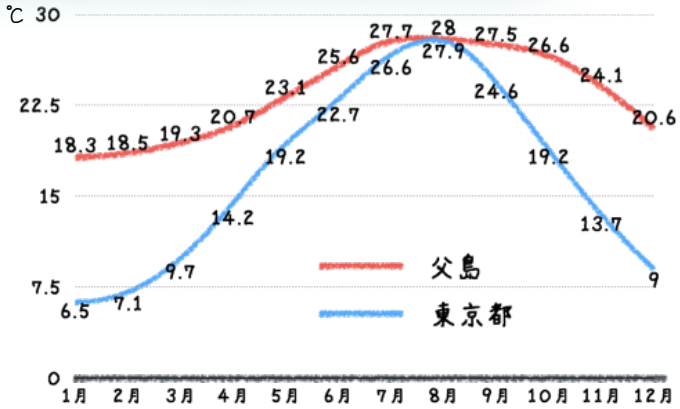
協賛企業一覧

富士フィルムメディカル株式会社
日本光電東京株式会社
フクダエム・イーエ業株式会社
日本全薬工業株式会社
ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽｱﾆﾏﾙﾍﾙｽ株式会社
森久保薬品株式会社
日本ビスカ株式会社
共立製薬株式会社
日本医療株式会社
アコマ医科工業株式会社
(順不同　敬称略)

小笠原ってどんなところ？

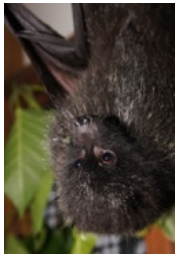
小笠原諸島は東京都の一部で、都心から南に約1000kmに位置し30あまりの島々から成り立っています。緯度は沖縄とほぼ同じ(父島27度)で、亜熱帯に属し四季を通じて温暖多湿な海洋性の気候です。多くの島のうち一般の人が住んでいるのは父島(約2000人)と母島(約450人)のみです。

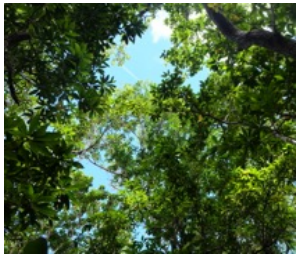
小笠原には空港がありません。本土からの交通手段は週に一度の定期便「おがさわら丸」のみ、片道25時間半の船旅になります。母島へはそこからさらに「ははじま丸」で約2時間です。



とくべつな島

小笠原の島々は今まで一度も大陸と繋がったことがない海洋島です。このような島には、植物も動物も、風か波に運ばれるか、羽があれば飛んでくるかしかたどり着く方法はありません。そのため、小笠原の生き物は独自の環境で進化し、世界でもここでしか見られない生き物(固有種)が多く存在します。そして2011年にはユネスコの世界自然遺産にも登録されました。現在、世界自然遺産は229件※1登録されていますが、その中で首都にある自然遺産は2件※2のみ。そのうちのひとつが、この小笠原諸島です。





※1　2015年現在。世界自然遺産・複合遺産を含む
※2　小笠原諸島・日本国東京都、モーン・トロワ・ピトンズ国立公園・ドミニカ国ロゾー市

プロジェクトのきっかけ

海洋島である小笠原諸島にはもともと肉食哺乳類はいません。外敵のいない環境で進化した動物たちは警戒心が薄く、地上で長く行動するなどの特徴があります。こういった動物たちは人間によってもちこまれたネコに対する防衛手段をもっていませんでした。

「あかぽっぽ」と呼ばれる固有種「アカガシラカラスバト」は一時生息数が40羽ほどになり絶滅寸前まで追い込まれました。そのころに撮影されたのがこの写真です。
ネコがくわえているのは自分よりも大きいカツオドリという海鳥。成鳥は翼を広げると1.5mにもなります。ネコは優秀なハンターであり、この島最強の捕食者なのです。

これをきっかけに山に住む野良ネコたち（ノネコ）の捕獲が始まりました。

しかし、問題は捕獲したネコの行き先です。捕獲されたネコに新たに飼い主を見つけようとしても、小さな島の中では受け入れられる数は限られています。

島の中で行き場のないネコ、逃げ場のない野鳥。

どうにもならない事態に島の住民の意見も分かれ簡単にはまとまりませんでした。そんな中、東京都獣医師会が受け入れに手をあげました。

野生動物もネコも救おう

今まで、こうした行き場のないネコたちは殺処分されるしかないと考えられていました。しかし、それまで誰も言わなかった「ネコも救おう」という言葉が、止まっていた島を揺り動かし、今に続く連携が始まります。

「野鳥は小笠原でしか生きられないけれど、ネコは都会でも幸せになれる。どちらの命も救いましょう。」

現在までに約500頭(2016年1月現在)のネコが小笠原からはるばる船に揺られて本土へ到着し、そして新たな家族のもとで幸せな生活を送っています。

小笠原のネコたちの里親になってくださった方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

しまネコの引っ越し大作戦

START！

ネコの糞から居る場所を調べ、自動撮影カメラにネコが写ることを確認して捕獲カゴを設置します。

捕獲カゴを設置したら毎日見回りです。ネコが捕まったらカゴごと背負って山をおります。

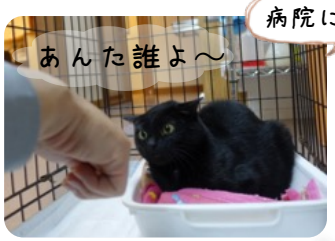
捕獲されたノネコは本土の受け入れ先病院が決まるまでの間、この「ねこまち」と呼ばれる建物で暮らします。

現地のスタッフは、まだ人に慣れていないネコたちに毎日声をかけ、島を離れるまで健康で過ごせるように愛情を掛けお世話をしています。

そして、船に乗り
里親さんのもとへ…

GOAL！

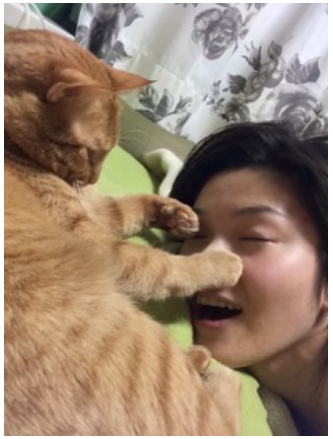
動物病院での馴致（人に慣らす）



到着してすぐの頃はまだ恐がりなネコもいます。

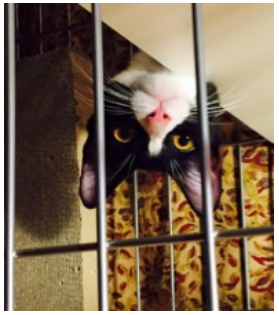
このように人が多く通るところで生活をさせて慣れさせます。

しまネコたちの新しい生活



ふうちゃんは、母島から来た我が家のアイドルです。毎日家族全員のおひざに乗ってすりすりごろごろして人間を癒し、後輩の父島から来たちっちくんには体を舐めてあげたりご飯を分けてあげたり…とお兄ちゃんとしても活躍しています。毎晩寝る前に「ふうちゃん、ねんこするよ！」と声をかけると、「にゃーーーん！」とお返事をして私よりも先にお布団まで飛んでいきます。

アーロン君はまだケージ内での生活ですが、ケージ越しでしたら撫でさせてくれます。おやつの茹でた鶏肉は手から直接食べ、とても可愛いです。



逆さまになって覗くのが好きなアーロン君。最近では、戯れて遊んで欲しいときに短く「ミッ！」と声を出すようになりいじらしいです・・・

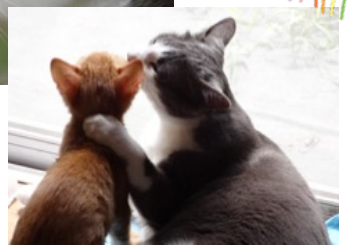
今ではすっかりベタベタな甘えん坊。抱っこもオッケー。ごはんと遊ぶのが大好きなカマッテちゃんです。ホントにあの「フー！シャアッ！」の、ノネコだったの？と思うデレデレっぷり。うふふふ

紹介させていただいたとおり、島外の引き取り協力者(飼い主さんと獣医師)の役割は大きく、このような方々を増やすことが今後の課題の一つでもあります。小笠原の自然を守っていくため、是非ご協力をお願いいたします。

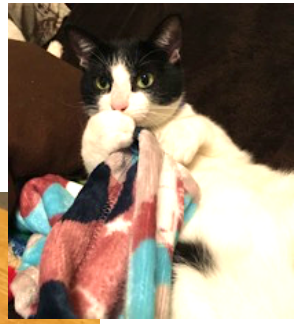
こちらをチェック！

小笠原村ネコ譲渡ページ
www.ogasawaraneko.jp/

共立製薬 譲渡・里親捜しのマッチングサイト
www.veterinary-adoption.com



マハロを家族に迎えて3年半。ツンデレでご飯はなでてあげないと食べません。弟ククナが来たので母親がわりに育ててくれました。人間の心情を読みとる賢さと、野生がぬけきらない臆病さはありますが、最近は少し太りぎみでスレンダーだったフォルムはどこへやら…　かけがえのない家族のマハロとククナにであわせて頂けたこと、感謝しています。これからも大切に育てていきます。



空とうちのわんこと一緒を置きながら、まーまー仲良くしています。初めての猫との生活は驚きいっぱいで、動きが速い、どこでも上る、引っ掻く、噛む、最初は足や腕は傷だらけでした。わんこも始めはビビッてましたが、そのうち向かって行く様になり、今は一日激しいバトルの後は、二人仲良く昼寝するを繰り返してます。

ルルが我が家に来て6年。いつもみんなの中心にいます。3年前にきた弟のりゅうとも仲良しです。カメラを向けるとソッポ向くのでおやつでつらないとかわいい写真は撮らせてくれません。楽しい時も悲しい時もいつも一緒です。ルルの可愛さ・優しさがみんなを笑顔にします。

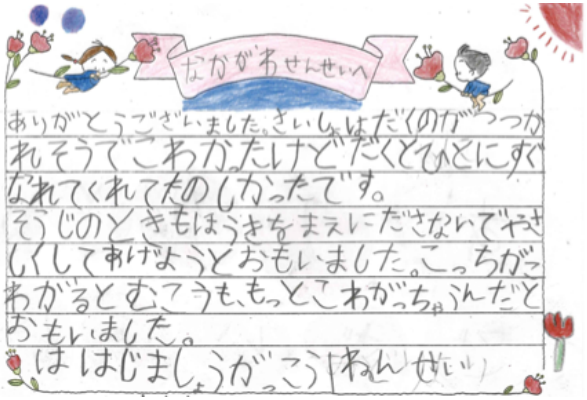
小笠原動物派遣診療

「人とペットと野生動物の共存」にはネコの捕獲だけではなく島民の方々の協力が不可欠です。これ以上ノネコを増やさないためにも、地域の住民が責任を持ってネコを飼育できる仕組みが必要です。小笠原村では1998年に全国初のネコの個体登録条例が制定されました。こういった取組みの中のひとつが派遣診療です。

父島には動物病院がないため、多くの患者さんがこの派遣診療に来ます。毎年この時期だけ、地域の交流センターが動物病院に変わり、健康診断・飼育登録・マイクロチップの挿入・不妊化手術などが行われています。行政や地元のNPO法人と共に始められたこの事業も今年で8年目を迎えました。派遣診療の目的は**“ペットの適正飼養を啓発すること”**です。つまり、診察を通して「小笠原固有の生き物を守りながら、大切なペットとどのように付き合うかを患者さん自身に考えてもらうチャンス」としてこの事業は設けられています。

しまの未来を支えるこどもたち

今年度は母島の小学校1・2年生、父島の小学校1年生を対象に動物ふれあい授業、父島の中学校1年生を対象に道徳の授業を実施しました。小笠原村では様々な事情(飼いネコ適正飼養条例や住宅事情など)によりペットを飼養する世帯が減少傾向にあります。

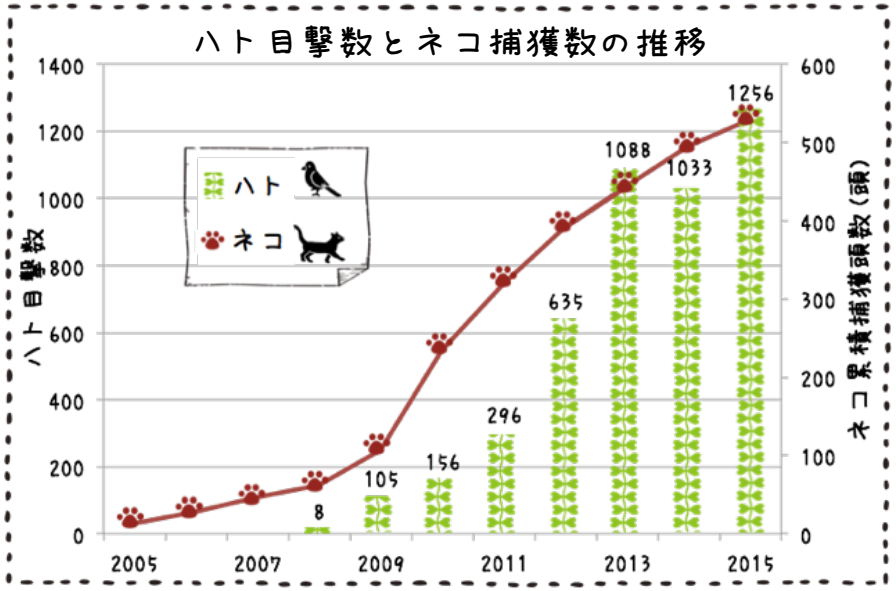


また、大変残念なことですが、この島でしか暮らせない多くの命を守るため、ネコ以外のヤギやトカゲなど多くの外来種を殺処分しています。大切な理由があり、仕方なく行っていることですが、この趣旨が誤って捉えられ、理由もなく生き物を殺すことをあたり前と感じる大人を育ててしまうことを恐れています。そういった中で学校飼育動物を通して生き物への親しみをもち、愛情を持って世話をすることで他者に対する思いやり培うことを期待しています。

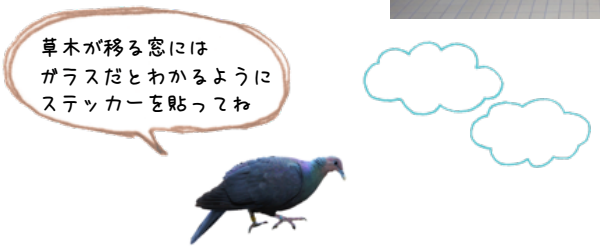
集落地付近でみられたアカガシラカラスバトの集団

野生動物復活のきざし

2005年頃、生息数が40羽ほどと絶滅寸前だったアカガシラカラスバトは、このような活動により、その生息数が200～300羽ほどまでに増加してきています。最近では集落地でも目撃されるようになりました。また、2014年には母島南崎の海鳥繁殖地でカツオドリの営巣・巣立ちが、8年ぶりに確認されました。



（上）カツオドリの親子。左が親鳥。（中）カツオドリの雛。ともに母島南崎にて。（下）バードストライク。写真は窓ガラスへの衝突事故。生息数の増加とともに、新たな危険も生まれました。



しかし、ネコの繁殖力は強く手を緩めればあっという間にえの状態に戻ってしまいます。
父島のノネコの推定生息頭数は2013年には10頭まで減少しましたが、昨年は30頭前後まで増えてしまいました。これは罠にかかりずらい「難捕獲ネコ」の繁殖が盛んになったことが原因のひとつと考えられています。
また、アカガシラカラスバトの生息数が少しずつ増えてきたため、車や窓ガラスへの衝突などがみられるようになりました。人が原因となる事故を減らす注意や工夫も必要とされます。
さらに、母島にはまだ推定200頭弱ものノネコが生息しています。引き続き多くの受け入れが必要とされています。

小笠原ネコに関する連絡会議（通称：ネコ連）

このような活動は小笠原村と東京都獣医師会のみで行われているわけではありません。環境省、林野庁、東京都、NPO法人小笠原自然文化研究所(iBO)など多くの組織が関わり成り立っています。これらのメンバーで構成されたネコ連では「人とペットと野生動物が共存して暮らせる島づくり」の実現を目指し、各団体がどのようなことが出来るのか、皆で知恵を出し合っているのです。

※愛玩動物による新たな外来種の侵入・拡散に関する地域課題ワーキンググループ

未来へむけて

ここでお話ししたネコの捕獲事業は「対症療法」でしかありません。たくさんのネコたちを捕獲し続けていくだけでは何も解決しません。
これ以上ノネコを増やさないために、小笠原村では条例により飼いネコの登録、マイクロチップの挿入が義務づけられています。今後も、飼いネコの不妊去勢の徹底、室内飼養などこの島でネコと暮らすよりよい方法を考え、推進していくことが大切です。

また、これはネコだけに限られるものではありません。ペットとして飼われている様々な動物（例えばウサギやフェレット、インコなど）が人間によって島内に連れてこられ、誤って逃がしてしまったら、島の生態系に大きな被害を及ぼす可能性があります。こういった問題に関しても、各関係機関が集まり「愛玩動物WG※」を立ち上げ、小笠原にふさわしいペットの適正な飼い方、共生の仕方を検討しています。

外来種は悪い生き物ではありません。悪いのは連れてきて放置した人間です。小笠原にお住まいの方、来島される方には、植物や昆虫も含め、今後新たな外来種を持ち込まないようお願いいたします。

動物たちを出会わせたのは人間だ
人間にできることがあるはずだ

小笠原ネコプロジェクト

2016年3月1日　発行

編　　集：（公社）東京都獣医師会
参考資料：「島ネコマイケルの大引っ越し」環境省
「アカガシラカラスバトの棲む島で」iBO
「オガサワラオオコウモリ森をつくる」小峰書店
写真提供：NPO法人小笠原自然文化研究所(iBO)
協　　力：小笠原ネコに関する連絡会議
(環境省小笠原自然保護官事務所・
小笠原総合事務所国有林課・
林野庁小笠原諸島森林生態系保全センター・
東京都小笠原支庁・小笠原村・
小笠原村教育委員会・iBO)
小笠原海運
フォント：さなフォン©沙奈
隼文字（Falcon Font）©霧風 隼
takumi書痙フォント©takumi